



# アクト

第27号

2014年4月15日発行  
九州国立博物館を愛する会



## ベトナム特別展支援旅行

つくし青年会議所 堀 悠祐

平成26年1月14日(火)～19日(日)にベトナムで行われた九博が関わった特別展「大日本文化展」の支援旅行(愛する会主催)に、「つくし青年会議所」の代表として参加させていただきました。前回はタイに続いて今回はその第2弾です。日本では気温がおよそ10℃に対し、ベトナムのハノイは滞在中およそ20℃前後と、かなり過ごしやすい天気でした。初日はノンバイ国際空港からバス2台で移動し、世界遺産である「ハロン湾」に一路向かいました。約3時間半掛けて移動し、宿泊先のホテルである「ノボテルハロンベイ」に到着したのは夕食の時間で外は真っ暗でしたので、世界遺産のハロン湾の眺望は次の日までお預けでした。夕食ではベトナム料理をいただきましたが、香辛料の香りは強いですが辛くなく、辛い物が苦手な私でも美味しくいただく事が出来ました。滞在2日目は2階建ての船に乗り込み、今回の観光の目玉である「ハロン湾クルーズ」に出発。この海域全体が石灰岩の地層で出来ていて、大小約2,000もの島々が奇峰の如くそそり立つ神秘的な景観が特徴です。



この風景はまさに自然の織りなす驚異であり、水墨画にも似た世界から「海の桂林」とも呼ばれているそうです。今回は日帰りのクルーズでしたので、闘鶏岩を巡り、ティエンク鍾乳洞等を見学した後、お昼御飯を食べながら帰路に着きました。その後、ハノイ市に向けてバスで移動して、二日目の夜はベトナムの伝統芸能である「水上人形劇」を見て、インターナショナルビュッフェ（日本でいうところのバイキング形式の食べ放題）にて世界各国の料理をいただきました。

滞在3日目となる16日は今回の支援旅行の目的の一つである国立ハノイ歴史博物館で行われる「大日本文化展」の開会レセプションに参加しました。レセプションが始まる前に、福岡から持参したお菓子を現地の皆さんに振る舞い、大変評判が良かったようです。その後の開会レセプションでは、九州国立博物館の三輪館長や、太宰府市の井上市長、太宰府天満宮の西高辻宮司も出席された中で盛大に執り行われ、大きな目的の一つを終了する事が出来ました。レセプション終了後はハノイ市内にある世界遺産「タンロン遺跡」へ行きました。ベトナム王朝の王城として栄え、ベトナム戦争の時には地下9mの深さに壕が掘られて、重要な拠点の一つとなっていたそうです。世界遺産には色々な史跡や景勝地がありますが、どれも人類にとって普遍的で意味深いものばかりだと、あらためて考えさせられました。

翌日17日は次の大きな目的の一つ、現地の小学生を招いてのワークショップの打合せの為、お昼過ぎから再び博物館へ。博物館には現地のハノイ大学の学生さんも集合して、翌日のワークショップの担当ごとに分かれて打ち合わせを行いました。学生の皆さんはとても素直な子ばかりで、理解力もあるのでスムーズに打合せを終えることが出来ました。



ワークショップ当日の18日、朝8時過ぎに博物館へ移動し、準備をしていると既に数名の子どもたちの姿がありました。準備中も次から次に子どもたちが現れ、実際に始まるころには、沢山の子どもたちで会場は溢れかえっていました。午前中だけの開催でしたが、本当に多くの子どもたちと保護者の方にご来場いただき、ワークショップも大成功でした。また、手伝ってくれた学生さんたちも、とても楽しそうに活動していたことが非常に印象に残りました。ワークショップ終了後は学生さんや博



物館の方たちと昼食をとり、博物館から歩いてホアンキエム湖まで学生さんたちと散策に行き、帰りにはみんなでアイスクリームを食べ、楽しいひと時となりました。

今回の支援旅行において、あらためて九州国立博物館を愛する会の会員の皆様のパワーを実感致しました。私もそのパワーに負けないように、これからもがんばって参りたいと思います。

総務委員会 前田勝一 朗

総務委員会の活動の一つでもあります特別観覧事業は、会員のみなさんのご協力でご定例化をすることができるようになりました。先日1月23日の「～国宝 大神社展～ 特別観覧」定例会は、120名を超える会員等の参加のもと開催いたしました。

今回は、例会の中で寄付金の贈呈式も併せて開催することができ、「得する相続相談所」から本会ほか2団体に寄付金をいただきました。この寄付金を本会における今後の活動に活用したいと思っております。

また、特別観覧では、九州国立博物館展示課の楠井主任研究員から神像と仏像の成り立ちに関する話など、大変興味深い解説のあと、展示物を鑑賞することができました。ぜひ、会員と一緒に特別観覧に参加された方々も本会に入会していただき、博物館と地域を一体的に盛り上げていけたらいいなと思っております。

3月21日には、「第18回九博デー」を開催しました。今回は、通常の九博デーと違い、エコ・環境をテーマに、エコ環境関係のNPO法人代表である松本英揮さんの講演と、九州国立博物館の三輪嘉六館長、太宰府天満宮の西高辻信宏権宮司を交えたパネルディスカッションを行いました。参加者は70名程度ですが、講演の休憩中も松本さんに質問に来られる参加者も多く、内容の充実したものとなりました。

6月には平成26年度総会も予定しておりますので、会員のみなさんの参加をよろしくお願いたします。



九博が  
好き





子ども達に九博に親しんでもらいたいとの思いで始めたこのイベントは今回が第6回目、ところで、九博内で同じ思いで、九博開館直前の平成17年8月に「九博ファミリー見学会」を「九博を支援する会」の先輩方が開催されていたことをご存知でしょうか。当日は約500名のファミリーが開館前の九博エントランスホールで、組みひも・拓本・勾玉作りなどのワークショップ、ミュージアムホールでは鼓・舞・合唱・舞踊を楽しんだそうです。

その思いが平成21年2月に開催された第1回「九博子どもフェスタ」に繋がっているのです。このイベントは「花王・コミュニティミュージアムプログラム」に「九博こどもフェスタ」～博物館って意外と面白いね！～プロジェクトとして応募、見事50万円の助成金を頂き開催されました。当時の企画書、ポスターを見ながらスタッフの皆さんが熱い思いで取り組んだ様子が見てとれ、これからももっと頑張らなければと気が引き締まる思いです。

来年は九博開館10周年を迎えます。今回も九博を愛する会スタッフは勿論 九博ボランティア、九博関係者が一体となって、このイベントを成功裏に終わることが出来ました。心から御礼申し上げますと共に、未来の九博ファンを作る大きな事業であることを自負しながらこのイベントを盛り上げていこうではありませんか。

今回、愛する会のワークショップは影絵・風車等4つのグループで活動しましたが今回は「おり紙～アクロバットな干支の馬～」と「ステンシルであそぼ！」を担当していただいたお二方にご報告いただきます。



嬉しそう！  
チマチョゴリを着て

静かに聞いていますね  
読み聞かせ

影絵（腹の中の原っぱで！）  
わー大変！

## ステンシルで あ・そ・ぼ!

事業委員会 野尻 敬子

わあカブト虫だ! わあきれいな花!  
目を輝かして出来栄えに歓声を上げる親子の姿。子どもフェスタ・ステンシル2年目がスタートした。

ステンシル? 耳慣れない言葉にも係わらず、ボード板を見て長蛇の列が出来ていた。30×20cm大の布に子供達の好きな絵柄を切り抜いた型を置き、ペイントしていくもので、感性豊かな子供達は小さなキャンパスの上で絵柄を斜めにしたり自由自在に移動して空想の世界に入り、固定観念に捉われない色使いで見事な作品を仕上げ、ご満悦の様子。子供の力作をカメラに収めるご両親。今年は昨年より材料を増やして、より多くの子供達に経験をしてもらおうと準備したにも関わらず、3時に終了してしまいました。午前・午後と昼食時を除いて休む暇もなく子供達に接した5人の仲間、お疲れさま。子供フェスタのお蔭で沢山の孫のような子供たちに囲まれて“幸せ” 又、来年も頑張ろう!



## 折り紙:「アクロバットな干支の馬」

事業委員会 原口 尚喜



中国の折り紙といわれる「アクロバットな干支の馬」、外国人の方に“ファンタスティック”といわせたことのある「羽ばたく鶴」、昨年引き続き人気ナンバーワンで色鮮やかに回る「花ゴマ」作りを実施しました。

スタッフは昨年経験された方々でしたので、研修を含め準備はスムーズに運べました。また、

研修時にはスタッフ以外の方も見えてボランティア交流の一端も担うことができました。

子どもフェスタも定着して、お客さんが並んで待つ状態も発生しました。スタッフも万全の態勢で臨みましたが、今年の参加者層は低年齢が多かったこともあって、マンツーマン方式に近い状態でスタッフ不足は否めませんでした。ただ、ボランティアの健康を考慮して昼食の休憩時間はきちんと作りました。

子どもさんからは「楽しかった」「作るのは難しいところもあったが、面白かった」親御さんからは「子供がこんなに夢中になることがあるのですね」と嬉しい称賛の言葉もいただきました。その言葉に呼応するようにスタッフ全員が積極的に対応しましたので、170名と多数のお客さんに作品を作ってもらうことができました。

「愛する会」会員全体にこの企画を認知していただいて、協力体制が強化されればさらなる発展が期待できるのではないかと思います。

特別展



への誘い

(九州国立博物館 展示課主任研究員 酒井芳司)

近衛家は、<sup>せつしょう</sup> 摂政・<sup>かんぱく</sup> 関白 となって天皇を補佐することができる五つの<sup>せつかんけ</sup> 撰関家 (<sup>ごせつけ</sup> 五撰家) の筆頭に位置付けられる、<sup>ふじわらのみちなが</sup> 宮廷貴族の頂点に位置する家です。その祖先は朝廷の重職をしめた藤原氏の嫡流家であり、平安時代、<sup>みどうかんぱくき</sup> 藤原道長 (九六六—一〇二七) の時代にいたって全盛期を迎えます。その道長の日記である「御堂関白記」(国宝) は千年の時を越えて伝えられた、現存する世界最古の自筆日記であり、その不朽の価値によって、二〇一三年六月、ユネスコの世界記憶遺産 (MOW:Memory of the World) に登録されました。この展覧会では、世界記憶遺産登録後、九州ではじめて自筆本十四巻のうち六巻、古写本十二巻のうち二巻を特別公開します。



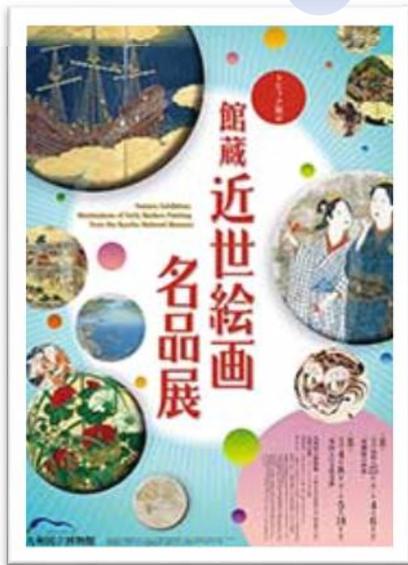
(国宝 御堂関白記)

貴族社会において、書は必須の教養でした。貴族達は筆跡の巧みな人<sup>のうしよ</sup> を能書として尊敬し、その書を鑑賞したり、また手本として手習いをしたりしました。近衛家は歴代天皇とのゆかりが深く、このため<sup>ようめい</sup> 陽明文庫には、天皇の書、すなわち<sup>しんかん</sup> 「宸翰」が数多く伝えられています。歴代天皇はたんに朝廷の頂点にあつて国政を執るばかりではなく、文化においても宮廷を主導しました。このように能書の王者でもあつた歴代天皇の書、さらに<sup>おのみちかぜ</sup> 小野道風、<sup>すけまさ</sup> 藤原佐理、<sup>ゆきなり</sup> 藤原行成 といった三蹟の筆と伝えられる書、和歌を大成した<sup>さだいえ</sup> 藤原定家の書など、宮廷を代表する名筆の数々を一堂にみることができます。

近衛家の代々の当主は、貴族社会の中心にあつて、天皇とともに宮廷文化を主導してきました。このためそれぞれの時代を代表する文化人、教養人を輩出しています。近衛信尹 (一五六五—一六一四) は室町時代から江戸時代にかけての激動の時代を生き抜いた近衛家の当主です。信尹は近衛家の<sup>しょうえん</sup> 荘園 があつた<sup>さつま</sup> 薩摩に配流され、現地で<sup>しまづ</sup> 島津氏の厚遇を受けたこともあり、九州ともゆかりの深い人物です。寛永の<sup>さんびつ</sup> 三筆 と呼ばれる能書でもあり、伝統を学びつつも奔放にしたためられた筆跡は書の世界に新風を吹き込みました。<sup>いえひろ</sup> 家熙 (一六六七—一七三六) は博学多識で文献の<sup>しゅうしゅうか</sup> 蒐集家でもあり、古筆を模写・臨書したり、独自の美意識で表装したりして、保存に尽力しました。古典を研究し、新たな文芸を興した当代きつての教養人です。今回は、江戸時代の近衛家を代表するこの二人の当主にスポットをあてます。

このように本展覧会では、<sup>ようめい</sup> 公益財団法人陽明文庫 (京都市右京区) が所蔵する近衛家伝来の名品の数々をつうじて、宮廷文化の精華を体感できることでしょう。





前回の「アクト」26号で前期「屏風絵の世界」をご紹介しましたが、4月8日からは後期「外国との文化交流」の展示が始まりました。

期間：平成26年4月8日(火)～5月18日(日)

場所：九博 文化交流展示室 関連第11室

内容：◆ヨーロッパとの出会い

◆中国との交流

◆韓国美術の影響

※ 九博が収集している館蔵の名品が上記の3つのテーマに沿って展示されています。江戸期の画家や文人が外国から入ってきた文化や技術に大いに興味を持ち、積極的に取り入れていったことがよくわかることと思います。

#### 関連したミュージアムトーク(展示解説)のご案内

4月15日(火) 鷺頭 桂学芸員 近世絵画名品展(3)

4月22日(火) 畑 靖紀学芸員 近世絵画名品展(4)

※ 4階「近世絵画名品展」会場にて、15:00～30分程度、聴講料は無料  
但し4階文化交流展示室の観覧料は必要ですが、満70歳以上、高校生以下18歳未満等無料となります。(詳しくは九博HPにてご確認ください。)

#### 拡大委員会 吉村 美和

昨年より活動を始めた拡大委員会も早いもので一年が経とうとしております。当初は手探り状態でしたが、愛する会の活動にご賛同していただく企業も増えお陰様をもちまして、20社程増加して法人会員も約50社、個人会員も徐々にですが増えていております。まだ目標の途中ですが、今後にご賛同頂ける個人・企業を拡大して参りたいと思います。

また、今回愛する会の卓上ミニのぼりを作成いたしました。(写真)現在、思案中ではございますが、企業の窓口である受付などに置いていただき愛する会を少しでも広めて頂きたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

平成26年度 会員募集中

法人会員 10 10,000円

個人会員 10 3,000円

詳しくは九州国立博物館を愛する会 ホームページをご覧ください

→ [aisurukai.net](http://aisurukai.net)



## 拵

ピッカ美化隊 橋本 久弥



事及び馬場区の皆さんと共に活動しました。

愛する会挨拶のあと、井上市長や参加された企業の中より代表の方のご挨拶のあと作業に移り、高所作業車を使用の清掃や参加された若い活力で日頃できないところ迄綺麗になり、まさにわが隊の意趣なる《おもてなし》のぴっかぴか国博通りに仕上がりました。

高所作業車と云えば、九電さんのご好意でわがピッカ美化隊員の美女がバケットに乗り街路灯の清掃をやってのけニュース事例となりました。



作業後の懇親会も和気あいあいでのいろいろな情報や近況なども出て、出席された方達も満足されたと受け止めました。

本隊は賛助会員・実行委員会所属に拘わらずどなたでも活動できます。

今後とも、会員の皆様方によりこの活動が継続しますよう さぼり自由で気軽に参加されますようお待ちしております。



### 編集後記

昨年、日本とベトナムの外交関係樹立 40 周年の記念の年でした。今年初め、「九博」はベトナムまで出向き交流を実施してきました。「九博を愛する会」も同行し、ベトナムとの文化交流の一翼を担ってきました。今月号の「アクト」は、ベトナムの国立博物館とのイベント交流の様子も掲載されています。

近年、日本とベトナムとの関係は、経済・産業面でますます緊密度合いを深めつつあります。そのような中、文化面で草の根的交流をめざす「九博」は重要な位置を占めています。九博を愛する会・会員になればこのような外国との交流イベントにも参加出来、幅広い教養を身につけることも出来ますよ。ただ今会員募集中です。 (古屋友喜)